

外部イベント（特に釣り愛好家を対象とした）を活用した環境意識収集の取り組み  
～河川環境の改善・生態系保全の取り組み～

所属 会員 柳川 晃

### 1. はじめに

一庫ダムは、大阪から約30kmの所に位置し、淀川水系猪名川の左支川一庫大路次川に建設されたコンクリートダムで、洪水調節、水道用水の確保、流水の正常な機能の維持等を目的とした多目的ダムで、昭和58年に完成し23年を経過している。

以前の猪名川の支川一庫大路次川は、アユの友釣り場として有名な場所であったが、現在ではアユ釣りを行っている人もアユの姿もほとんど見なくなっている。



### 2. 環境保全の取り組み

かつてのように多くの魚種が住みやすい川へ復元したいという強い地元からの要望もあり、一庫ダムでは猪名川漁業協同組合と協働して2つの環境保全の取り組みを実施している。

その1つがダム下流の河川環境の改善である。

川砂利が減少し、岩盤が露頭した河床や陸生植物の繁茂を改善すべく、玉石の投入による水際域と瀬の復元、土砂投入と流量変動（フラッシュ放流）による河川内への土砂供給、陸生植物の除去等の取り組みであり、底生動物の増加、藻類の更新、アユの成長等のモニタリング結果（H14～H17）を得て来ている。



施行前（ダム直下約100mの状況）



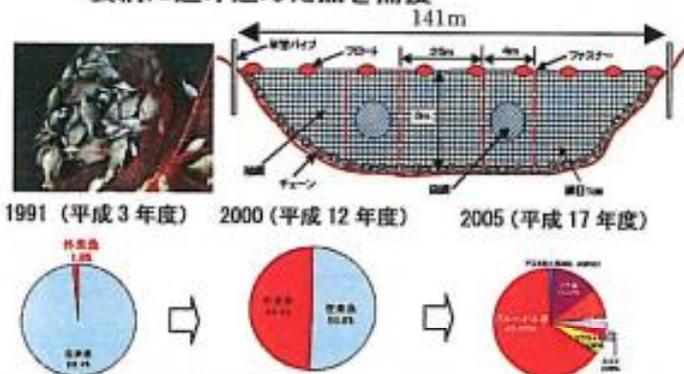
（一時的にダムからの放流量を増やし藻類の更新等を図る）

2つ目の取り組みがダム湖内に生息する魚類の生息状況の把握と在来魚の保護など水域の生態系保全である。調査は、水位が高く産卵のため魚が浅瀬に移動する4月から5月に袋網を設置し、洪水期に向けたダムの水位低下に伴い、袋網に逃げ込んだ魚を捕獲する袋網手法を取り入れた。

本手法の採用により、一度に大量の魚種を殺さずに確認出来るとともに、在来種と外来種を仕分けし、在来種を生きのまま放流出来るよう調査を実施した。また、捕獲した外来魚の一部は、家庭用の生ゴミ乾燥機を用いて魚粉とし、家庭菜園の肥料として使用している。（平成16年6月特定外来生物被害防止法公布）



ダムの水位が高い時期に定置網を設置  
袋網に逃げ込んだ魚を捕獲



キーワード：環境改善、広報、生の声

連絡先：兵庫県川西市一庫字唐松4番地-1

独立行政法人水資源機構一庫ダム管理所

電話：072-794-6671

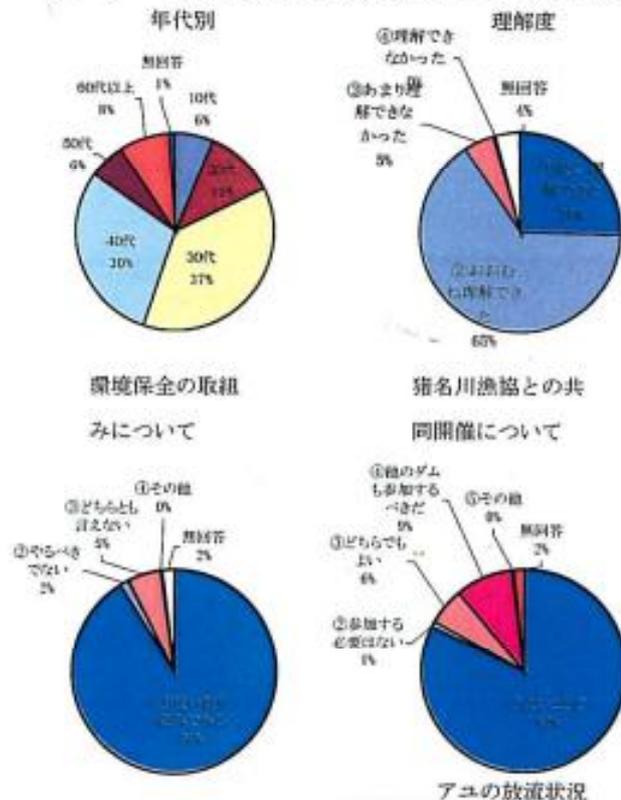
FAX：072-794-0590

### 3. 情報発信の試み

猪名川の現状とこれらの取り組みを一般の方々（特に釣愛好家をターゲットにして）に知らせるとともに、意見収集・交換の場として猪名川漁業協同組合との共同展示を企画し、大阪釣具協同組合が主催で平成18年2月3日～5日、インテックス大阪を会場に全国から40,000人を越える釣り愛好家等が見学に訪れたフィッシングショー大阪2006への出展を行った。

川に砂利をもどすことは大多数の方が合意できた。また、在来魚と外来魚ともにバランスよくダム湖内に生息することが好ましいとの観点から袋網による調査等の取り組みを釣り愛好家とも直接対話方式により意見交換を行った。バス釣り愛好家からは反対意見、フナ釣り愛好家からは賛成の意見と激しいやりとりもあったが、イベントでのアンケート回収件数は1,194件にのぼり、貴重な意見を多数収集することができた。

アンケートによる集計結果は以下のとおりである。



その他の意見については、以下のとおりである。

- ・ダム事業者と漁業組合関係者が共同して出展していることに驚いた。

- ・バスやブルーギルは広めるべきでない。

ブルーギルについては、双方の愛好家ともに駆除すべきとの意見が大勢を占めていた。

- ・取り組みをアピールすることはよいが、釣り人の環境意識レベルをよく見極める必要がある。

- ・全国でやるべき、ダムとの共生は今後必要。

- ・積極的な取り組みに感動した。

- ・淀川もきれいになってきた。もっと取り組むべき。

#### まとめ

直接対話による意見交換やアンケートの集計結果より、環境改善の取り組みについては概ね好感を持って受け入れられた。文章でアピールすることもさることながら、従来、河川開発事業に最も反対意見の多い釣り愛好家の方々と直接対話・説明を行うことが、今後の河川管理をすすめる中において、お互いの誤解をなくし、相互に理解を深める重要なことであると改めて感じている。

ダムの建設、周辺の都市化等に伴いダム下流河川における魚類の生息環境は必ずしも良好とはいえない。このような現状を改善するため玉石の投入や土砂投入とフラッシュ放流等による環境保全の取り組みは、ダム事業者として重要な役割であり、漁業共同組合の方々との協力関係は欠くことのできないものである。

一庫ダムでは、春先に漁業組合関係者、有識者、自治会代表等との意見交換会を公開にて開催し、下流河川環境復元に向けての取り組みを報告、本年度の取り組みを紹介するとともに意見交換を行い、合意を得た上で環境改善の取り組みを行うこととしている。また、モニタリング用のアユの放流には地域の子供たちにもこの取り組みを知ってもらいつつ、アユの放流のお手伝いをさせていただいている。

今回収集した意見及び有識者の指導・助言も受けながら、猪名川漁業協同組合と協働して、環境改善の取り組みを継続するとともに、広く一般に向けての広報を積極的に継続していきたい。